

私の生きた時代と今なぜ地球憲章か

地球憲章アジア太平洋・日本委員会代表
広中和歌子

初めに：二十世紀を生きて

- ▶ 戦前、戦中、戦後の日本、 集団疎開の体験と養われた独立心
- ▶ アメリカへの強い好奇心、1958年アイゼンハワー時代のアメリカへ
- ▶ 60年代、ケネディの公民権運動、ベトナム反戦、Woman Lib
- ▶ 豊かさの陰りの中、Bostonでの郊外生活
- ▶ 子育て以後の女性の生き方を模索、翻訳インタビューを通じ日米文化の紹介
- ▶ 1980年前後日本に戻り 教育、社会をテーマに日米比較の視点で評論活動
- ▶ 1986年 政治の世界へ、公明党国民会議方式で
- ▶ 外務委員会と環境特別委員会へ、環境関係の条約審議と過去を背負った環境庁
- ▶ GLOBE（地球環境国際議員連盟1989年）、GEA(地球環境行動会議1992年)に参加
- ▶ 細川内閣で国務大臣環境庁長官（地球環境問題担当）を拝命（1993-4）
- ▶ 地球憲章の作成過程に参画

I. 二十世紀の世界

- ▶ 科学技術の進歩発展
- ▶ 経済規模の拡大 環境問題、公害が地球規模へ
- ▶ 医学の進歩と人口増加⇒食糧、水不足
- ▶ 豊かな社会と格差の拡大
- ▶ 戦争の規模拡大：二つの世界大戦と多くの地域紛争
- ▶ 国際連合、国連機関の成立とその限界（国連憲章、世界人権宣言）

II. ブルントラント委員会とリオサミット

- ▶ 気候変動枠組条約
- ▶ 生物多様性条約
- ▶ 砂漠化防止条約
- ▶ 人々の生き方考え方を変える地球憲章の必要性

III. 地球憲章・・・起草から成立まで

- ▶ キーパーソンズ：M・ストロング（元リオサミット事務局長）
M・ゴルバチョフ（元ソ連邦大統領）
R・ルベルス（元オランダ首相）
S・ロックフェラー（哲学者）等
- ▶ オランダ、ハーグのピースパレスでの提案（1995年）
- ▶ リオ+5にて草案作成（1997年）ユネスコ本部にて完成（2000年3月）
- ▶ ピースパレスにて発足（2000年6月）

IV. 地球憲章・・・その内容

1. 生命共同体への敬意と配慮
2. 生態系の保全
3. 公正で持続可能な社会と経済・・・大量生産、大量消費、大量廃棄を改める
4. 民主主義、非暴力、平和

V. 地球憲章をどう広めるか

- ▶ コスタリカに事務局
- ▶ 世界各地に地球憲章支部設立
- ▶ 2002年国連持続可能な教育の十年との連携
- ▶ MDGs（2000年開発目標）との共同歩調

VI. 地球憲章アジア太平洋・日本委員会 設立とその活動

- ▶ 地球憲章の和訳とパンフレットの作成
- ▶ 地球憲章ブックレット、“持続可能な未来に向けての価値と原則”の出版
- ▶ 地球憲章日本委員会の立上げと賛同者の署名集め
- ▶ 地球憲章日本版ウェブサイト
- ▶ 委員会有志による講演活動
- ▶ 国連クラシックライブによる地球憲章をベースにしたミュージカル、
- ▶ 日本各地、海外公演も（ジュネーブ、ニューヨーク、ワシントン）
 - 『青い地球は誰のもの』・『森は生きている』

VII. これからの地球の課題と地球憲章の 果たす役割

- ▶ 異常気象
- ▶ 生物多様性の減少
- ▶ 砂漠化
- ▶ 海面上昇
- ▶ 更なる人口増加・・・食糧、水不足
- ▶ 貧富の格差の更なる拡大と世界規模で広がる人々の不満
- ▶ テロや紛争・・・戦争は最大の環境破壊